

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第188号(2017.05.25発行)

このメルマガは、どなたに転送いただいても構いません。

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【お知らせ】

- 2017年度の受講生を募集しております。講座の詳細はHPをご覧ください。

※1学期の講座が始まりました。2・3学期の受講生を引き続き、募集しています。

《キャリアアップ・プログラム》 <http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/index.html>



《カルチャー講座》

<http://www.hue.ac.jp/lecture/culture/index.html>



【目次】

・巻頭言……広島経済大学 経済学部

メディアビジネス学科 准教授 貫名 貴洋

・広島経済大学 HP の紹介

・キャリアアップ・プログラム(CP)/カルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせ

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

准教授 貫名 貴洋

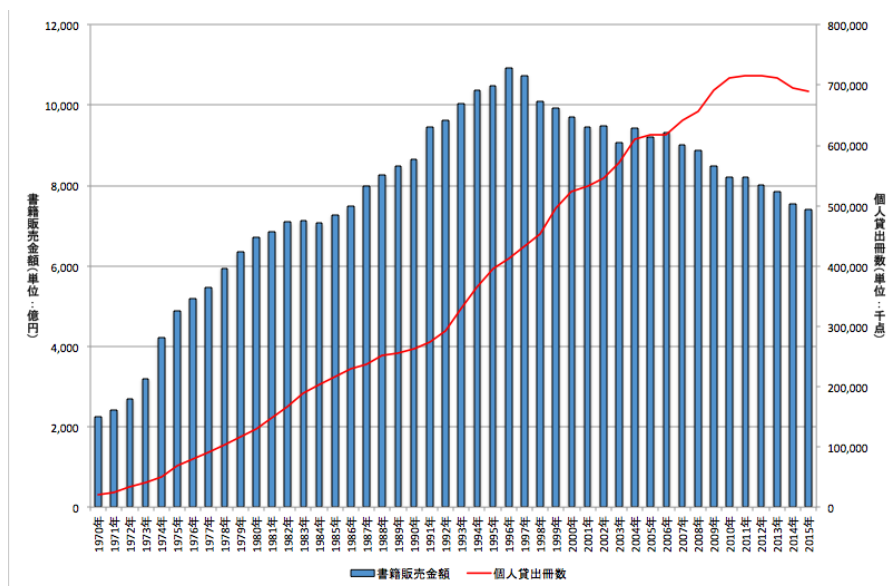
1学期 CP 講師『Excel で学ぶ統計入門』

2学期 CP 講師『Excel で実践 経済データ分析』

「書籍売上の減少は図書館貸出の増加が影響か？」

「本が売れないのは図書館の貸出が増加しているからだ」という意見が巷ではまかり通っているようです。事実、取次を介した書籍販売金額が1996年をピークに減少傾向に転じたのに対して、公共図書館における個人貸出冊数はその後も増加傾向を示しています(図1参照)。2000年代初めから出版業界や作家などが危機感を持ち始め、公共図書館における貸出点数の増加が書籍販売金額の減少の一因を担っているとする論調が現れ、中には、公共図書館を「市民迎合の公立無料貸本屋」と批判する過激な表現さえ飛び出しています。2015年10月に開催された、第101回全国図書館大会での報告によれば、「販売部数の急激な落ち込みと貸出冊数の急激な上昇ぶりには、何らかの相関があるのではないかと感じる」と問題提起しています。こうした流れから、著者と版元の合意がある新刊について貸出の1年猶予を求める動きが出始め、2016年11月22日には、日本書籍出版協会文芸書小委員会から全国の公共図書館館長に対して、「公共図書館での文芸書の取り扱いについてのお願い」とする文書が配布され、文芸書・文庫本の購入や寄贈に配慮をお願いするよう求めているのが現状です。

図1 図書館貸出冊数と書籍販売金額の推移



(出典)図書館資料:『日本の図書館 統計と名簿』、書籍販売資料:『出版指標年報』を基に筆者作成

この文章を読まれているみなさんは、図1のグラフをごらんになってどのようなことを考えますか。私がこの問題に興味を持ったのは、2015年度の学生に図書館サービスに関する卒業論文指導をしている時でした。その際、とある新聞記事に目が行ったのです。同年10月29日に掲載された朝日新聞の「売れぬ本「貸し出しが一因」と題された記事です。図1とほぼ同様のグラフを提示し、また前述した全国図書館大会での発言を根拠に、冒頭の通説を説明していました。私がこの記事(グラフ)を見た瞬間、「あ！時系列データの落とし穴に引っかかっている」と学生に説明しました。せっかくの機会ですので、私がこの問題に関して、統計的に分析した結果について簡単に解説致しましょう。

図書館貸出冊数を変数 x 、書籍販売金額を変数 y として回帰分析を行いました。入手できた1970年～2015年の回帰分析の結果は、マイナスに有意な関係があるというものでした。書籍販売金額がピークを迎えた1996年を境に、1970年～1996年、1996年～2015年の2期間に分けて同様の分析をすれば、前期間は有意性が得られない、後期間はマイナスに有意な関係があるという結果となりました。この「マイナスに有意」とは、「図書館貸出冊数が多い年には書籍販売金額が低くなる」ということを示しています。しかしながら詳細に推計結果を眺めると、ある問題点に気づいたので

す。それは、2003年にノーベル経済学賞を受賞した Granger らが実証した「見せかけの回帰」の存在の可能性です。「見せかけの回帰」とは時系列データ同士の分析にありがちな関係で、コンピュータのシミュレーションなどで発生させた乱数を用いて、関係ないデータ同士に有意性が現れるという現象を生み出すことさえできます。そもそも図書館貸出の「増加」が書籍売上の「減少」に影響を与えていると考えるのであれば、ある年からその前の年のデータを差し引きした「増減分」同士で分析を行うべきではないでしょうか？そこで、この増減分である「階差データ」を用いて、改めて図書館貸出冊数と書籍販売金額の回帰分析を行いました。すると、1970年～2015年の全期間、1970年～1996年、1996年～2015年と分けた期間のいずれの場合においても、統計的に有意な結果を得ることはできませんでした。すなわち、「図書館貸出冊数の増減と書籍販売金額の増減にはなんらの関係も見出せない」ということです。

さらに分析は進みます。書籍販売金額のピークである1996年以降から2014年までの期間について、都道府県別の図書館貸出冊数と書籍・雑誌販売金額を入手しました。各年ごとの相関係数を求めていくと、2013年のみ有意性が得られなかったものの、それ以外の年においては、プラスに有意という結果が得られました。この「プラスに有意」とは、「図書館貸出冊数の多い都道府県は書籍・雑誌販売金額も多くなる」という傾向を示しています。このことは、冒頭で触れた通説とは全く逆の見解でもあります。

ここで紹介した事例は、ただ入手できたデータをグラフ化し、漠然とデータを眺めてみても誤った分析をしてしまいがちだということの証明でもあります。日常生活やビジネスの現場においても、誤った解釈を自分なりに検証することなく、正しいと認識してしまうことも多々あるでしょう。統計的手法を学ぶということは決して楽な道ではありませんが、コツコツと積み重ねていけば大きな成果の得られる分野であると私は確信しております。情報化社会と言われる時代になって、すでに数十年。コンピュータもあらゆる人の手に入り、それこそスマホなどはかなりの人の手の中に日常から存在しています。「数学や数式がわからないからデータ分析なんて無縁だ！」なんて言わないでください。あなたの手の中にあるスマホだって十分に統計分析を行うことが可能です。キャリアアップ講座では統計的手法の基礎を学ぶことができます。ぜひ統計分析の第一歩を踏み出してみませんか？

■広島経済大学 HP のご紹介

本学を HP にて紹介しています。キャリアアッププログラムの基盤となっているカリキュラムや学生の生き生きした明るい表情がうかがえます。URL をクリックして、本学の様子をご覧くださいと思います。

【広島経済大学 HP】<http://www.hue.ac.jp/>

春が過ぎ、初夏の暑さが気になる季節になりました。

さて、広島経済大学の HP では5月半ばからオープンキャンパスの無料送迎バスの申込受付が始まりました。今年度1回目の本学のオープンキャンパスは6月18日(日)です。日にちが近づくと、テレビCMも流れ始めます。各大学が個性豊かにPRを行うテレビCMは、私たち大学関係者にとって夏(=オープンキャンパスの時期)を知らせてくれる風物詩の一つです。これまでご覧になったことがある方もそうでない方も、テレビCMから感じる“大学”をぜひ楽しんでみてください。

■キャリアアップ・プログラム(CP)やカルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へご連絡ください。

〒731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学 教育・学習支援センター

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM